



5日予定の「支援する会」の『川遊び』が延期になりました。今度の12日はできればいいなあと子ども達と天気を祈ることにします。

子ども達は何を感じたのか

5年生野外活動 その2

キャンプファイヤー



消えゆく火を囲んで、 静かに語り合う

手際よくロープを縛っていく子がいました。「この子はよく働くなあ」という発見もありました。いかだづくりの後の帰りの坂道、ある子が「どうして疲れていてもニコニコしてられるの?」と尋ねるとその子は、「つらい時こそ、楽しくやらないと。」と。(これには参りました。大人でもそう思えるだろうか)。また、フォークダンスのときには、輪に翔斗さんが入るようにと押してあげる子がいました。そんな友達のたくさんの姿を心に刻んでほしくて、ファイヤーの終わりに2日間の「振り返り」の時間をつくりました。工藤先生の「静かに気持ちを落ち着かせて振り返ってみましょう」のことばに、班ごとに語り合いが始まりました。

「〇〇さんが、※※さんの荷物を持ってあげていました。えらいなあと思いました。」誰かが口火を切りました。普段遠慮しがちなある子は「はじめは協力できるか心配だったけど、この班で協力できてよかったです。」とポツリと話しました。語り合いが続きます。

友達のすごいところや自分になかった考えやよさに気づきました。また、「それに比べて自分はまだまだ…」などと自分のことにも気がつくことができれば、本当の高学年と言えるでしょう。そして、「もっと友達のことを知りたい。」とか、「人と関わることって大事だな。」と感じてほしいと思っています。



もう1つの野外活動

～先生たちの再検討・再々検討、再々々…検討～

1学期段階、予定では「県北青少年の家」に行くことになっていました。子ども達は、スローガンを決め、班をつくり、キャンプファイヤーの準備を始めました。夏休みに入って久慈市内での感染も確認されました。お盆にはたくさんの人が往来するでしょう。先生方は悩みました。学校では、宿泊を伴う学習（野外活動や修学旅行）は、保護者の同意を得て進めることにしていました。

心配

=宿泊することについて=

部屋はゆったりと2人ずつ泊まれるようお願いしてありました。それでも、「おうちの方は心配ではないだろうか。」と考えました。しかも、人の移動がたくさんあるお盆からまだ日が経っていない時期（いろいろなところで2週間という目安が言われています）です。文部科学省や教育委員会のガイドラインや指針に照らしては問題なくても、学校として独自に、慎重に行おうと考えました。

=野外炊飯（カレーづくり）について=

2学期に入ったら、「調理実習は可」という町教育委員会の目安が示されていましたが、これも、学校では、休み明けすぐではなく徐々に始めていきたいと考えていました。

判断

「多くの人に理解してもらえるようであればいけない」、「宿泊は見送るべきではないか」、そんなことを繰り返し話し合い苦しい結論でしたが、

- ・ 宿泊はやめよう
- ・ 野外炊飯もやめよう

としました。「大丈夫ではないか」という声もあると思いますが、「心配」という声もあるでしょう。どのおうちにも理解を得られるようにと考えました。どの子も連れて行けるようにと考えました。

計画の組み直し

計画の組み直しに入りました。

「日帰りで行おう。」「1日という日程もありますか。」「いや、楽しみにしていた活動なのだから、『宿泊なし・カレーなし』をカバーできるような活動を組んであげよう。」「では、2日という日程は変えないで進めよう。」「通うには時間がかかる青少年の家に行かないことも考えられますか。」

県北青少年の家に相談してみました。青少年の家では、「『宿泊なし』もかまわない、キャンセルもかまわない、予定していた「焼き板づくり」は「青少年の家」の先生が出前授業を出かけることも可能」などのお話をいただきました。ありがたかったです。「仮に青少年の家に行かないとしたら」どんなことができそうか考えました。

=行かないとしたら、どこで？=

「久慈平登山をして校庭でキャンプファイヤーではどうでしょうか。」

「次の日に、青少年の家の先生に来ていただいて『焼き板づくり』もできそうです。」

「海辺を歩くというのはどうでしょうか。海浜公園でファイヤーはできないか聞いてみましょう。」

『支援する会』に相談したら、いろいろな方がアドバイスを下さるのでは。」

そこへ、「種差少年自然の家ではどうか」というアイデアが出されました。

種差ではどうか

「いかだづくり」などたくさんのメニューがあること、ウォークラリーや焼き板づくりなど「県北青少年の家」で予定していた内容も行えることが分かりました。その後、先生方がお盆閉庁に入りましたが、下見と打ち合わせに出かけ、「種差少年自然の家」に行くことを決めたのでした。近くて日帰り（通い）に適していることも大きな理由に加わりました。

※帰ってくる都合で、キャンプファイヤーは明るい時間からになってしまいましたがギリギリの時間帯にしました。「どうせなら、2日間を振り返るようなファイヤーがよいのではないか。」と2日目の最後に行ったのですが、子ども達にとってはよいものになったようでした。

今回はギリギリになってからで、関係のおうちの方には大変ご心配をおかけしましたが、安全・安心には代えられないという考えでの変更でした。今後も、コロナの影響で取り組みにいろいろな制約を受けたり慎重に行うことが求められたりすると考えます。判断が遅くなったり変更になったりすることもあるかもしれませんが（できる限りないようにします）が、まずは、「子ども達にできるだけいつもに近い形で活動させられないか」をしつこく考え、安全・安心も慎重に考えて判断して参りたいと考えますので、ご理解をよろしくお願いたします。

